

本市の公共交通について

現在の公共交通について

一 公共交通網概要

1. 鉄道

【名鉄広見線】(犬山駅～新可児駅～御嵩駅間)

市内駅：西可児駅、可児川駅、日本ライン今渡駅、新可児駅、明智駅

運行時間等：5時～24時

運行間隔：4本/時(犬山駅～新可児駅間) 2本/時(新可児駅～御嵩駅間)

平日ピーク時運行間隔：6本/時(7時台。新可児駅～犬山駅方面)

利用者数：

西可児駅

区分	乗車人員		
	総数	うち定期	1日平均
平成 21 年度	1,029,957	811,710	2,853
〃 22 年度	999,412	788,100	2,768
〃 23 年度	958,904	752,280	2,655
〃 24 年度	907,890	701,580	2,514
〃 25 年度	916,115	714,240	2,537

可児川駅

区分	乗車人員		
	総数	うち定期	1日平均
平成 21 年度	261,460	154,680	723
〃 22 年度	269,608	164,190	745
〃 23 年度	272,543	166,200	753
〃 24 年度	279,093	168,570	771
〃 25 年度	278,452	174,990	769

日本ライン今渡駅

区分	乗車人員		
	総数	うち定期	1日平均
平成 21 年度	527,369	340,200	1,458
〃 22 年度	523,301	339,090	1,447
〃 23 年度	539,131	352,590	1,489
〃 24 年度	558,950	370,710	1,546
〃 25 年度	580,935	388,530	1,606

新可児駅

区分	乗車人員		
	総数	うち定期	1日平均
平成 21 年度	886,494	655,020	2,454
" 22 年度	872,651	641,010	2,416
" 23 年度	856,349	634,620	2,369
" 24 年度	877,350	642,330	2,428
" 25 年度	897,196	662,970	2,484

明智駅

区分	乗車人員		
	総数	うち定期	1日平均
平成 21 年度	195,757	165,780	543
" 22 年度	180,435	151,140	500
" 23 年度	170,188	141,990	471
" 24 年度	174,018	146,430	483
" 25 年度	166,125	139,830	460

【JR 太多線】(多治見駅～美濃太田駅間)

市内駅：可児駅、下切駅

運行時間：5 時～24 時

運行間隔：概ね 2 本/時

利用者数：

可児駅

区分	乗車人員		1日平均 乗車人員
	総数	定期	
平成 21 年度	530,412	395,965	1,453
" 22 年度	533,805	400,881	1,462
" 23 年度	519,943	389,937	1,421
" 24 年度	514,382	379,647	1,409
" 25 年度	524,579	393,733	1,437

2. バス

【東鉄都市間高速バス】

中央ライナー可児号（新宿駅行） 2往復/日

桜ヶ丘ハイツ～名古屋線 6時～24時の平日23往復/日、土休日15往復/日

可児市役所前～名古屋線 6時～22時の平日7往復/日、土休日6往復/日

名古屋・西可児線 6時～22時の平日9往復/日、土休日8往復/日

利用者数：

区分	乗車人員	1日平均乗車人員
平成22年度	345,572	947
〃 23年度	331,971	910
〃 24年度	334,941	918
〃 25年度	341,596	936
〃 26年度	308,057	844

【東鉄路線バス】

帷子線（緑、長坂団地、光陽台系統）毎日11～16往復/日

緑ヶ丘線 平日5往復/日、土休日2往復/日

桜ヶ丘ハイツ線 平日23便/日、土休日16便/日（皐ヶ丘止を含まない）

久々利線 土休日1往復/日

花フェスタ公園線 4月第2土から6月第4日までの土休日4往復/日

八百津線 平日2往復/日

利用者数：

区分	乗車人員	1日平均乗車人員
平成22年度	593,923	1,627
〃 23年度	572,885	1,570
〃 24年度	573,190	1,570
〃 25年度	587,107	1,609
〃 26年度	587,781	1,610

【コミュニティバス】

さつきバス（中心循環線、西部線、東部線、桜ヶ丘線、兼山線）月～土曜日4～13便/日

利用者数：

区分	乗車人員	1日平均乗車人員
平成22年度	64,349	176
" 23年度	59,526	163
" 24年度	54,788	150
" 25年度	51,907	142
" 26年度	51,009	139

電話で予約バス（7区域）

利用者数：

区分	乗車人員	1日平均乗車人員
平成22年度	7,882	22
" 23年度	17,183	47
" 24年度	21,898	60
" 25年度	25,969	71
" 26年度	27,098	74

YAOバス

利用者数：

区分	乗車人員	1日平均乗車人員
平成22年度	82,425	226
" 23年度	84,096	230
" 24年度	92,773	254
" 25年度	88,755	243
" 26年度	88,466	242

以上の交通手段により本市の公共交通網は形成され、主に鉄道や都市間高速バスが広域的な都市間の移動を、路線バスやコミュニティバスが市内の地域の生活交通を担っています。コミュニティバスについては、市の縁辺部の大型団地や旧来の集落と、公共施設、医療機関、商業施設が密集している広見や西可児駅周辺を結ぶ形となっています。

二 計画について

平成 25 年 6 月に当協議会において、「可児市生活交通ネットワーク計画」を策定しました。計画では「誰もが安心して移動できる公共交通ネットワークの構築」を目標に掲げ、計画期間を平成 25 年 6 月から 30 年 5 月までの 5 箇年とし、主にコミュニティバスを中心に路線の変更や公共交通の利用促進を行っています。

目標：誰もが安心して移動できる公共交通ネットワークの構築

基本方針 1：人の暮らしとまちの活性化を支援・誘導する公共交通体系

基本方針 2：誰もが利用しやすい公共交通体系

基本方針 3：持続可能な公共交通体系

今後の公共交通の在り方について

本市は平成 20 年頃から人口が減少に転じ、今後少子高齢化がより進んでいくと予測されていますが、高齢者が増加することにより、自家用車からの転換が進み公共交通の需要が高まっていくものと思われます。このような状況に対応できるよう、今後とも効率的で持続可能な地域公共交通ネットワークを構築することがますます重要になってきます。

国においては、昨年 11 月に交通政策基本法の基本理念に則り、活力に満ちた地域社会の実現に寄与するため「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正されました。この中では、地域公共交通に求められる役割として、高齢者などのいわゆる交通弱者に対する移動手手段の確保だけでなく、まちのにぎわいの創出など、「まちづくり」の一環としての公共交通網の必要性が謳われています。また、民間事業者を中心とした従来の枠組みから脱却し、地域戦略の一環として地域を一体とした公共交通網形成に取り組むという、これからの地域の公共交通の在り方を示しています。法では、これらの地域にとって望ましい公共交通網のすがたを明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものとして、都市計画等と調和がとれた「地域公共交通網形成計画」を定め、観光振興等の地域戦略との一体性の確保をポイントとしています。

地域公共交通に求められる役割

- ・ 地域住民の移動手手段の確保
- ・ コンパクトシティの実現
- ・ まちのにぎわいの創出や健康増進
- ・ 人の交流の活発化



これからは、まちづくり、観光振興等の地域戦略と一体となり、住みやすく、活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域公共交通の再編を進める必要がある。